

## 論文番号 47

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Alcohol Consumption with Age: A Cross-sectional and Longitudinal Study of the Atherosclerosis Risk in Communities (ARIC) Study, 1987-1995

年齢とアルコール消費量：地域における動脈硬化 (ARIC) の断面的および縦断的研究、1987-1995年  
執筆者

Marsha L Eigenbrodt, Thomas H Mosley, Jr, Richard G Hutchinson, Robert L Watson, Lloyd E Chambless, Moyses Szklo

掲載誌 (番号又は発行年月日)

American Journal of Epidemiology 2001;153:1102-11

キーワード

Aging, alcohol drinking, prevention

要旨

ARIC 研究において、ベースライン (1987-1989 年) と 6 年後 (1993-1989 年) の追跡時における飲酒率、飲酒量の変化を 15,425 人の黒人・白人男女の成績によって明らかにした。追跡できたのは、12,565 人であった。断面調査では、年齢が高いほど、民族、男女を問わず、飲酒者の率は低かった。6 年間の変化では、黒人の女性を除き、飲酒率、アルコール消費量とも減少した。40%以上の人々が、ベースライン時とは異なった飲酒習慣を持ったが、これは、飲酒率、および飲酒量の減少によるものが大きな影響を及ぼしていた。多量飲酒者の頻度が減少することは国民全体の健康にとっては好影響を与えるが、少量の飲酒者が減少することは、心疾患の発症リスクを持つ人にとっては悪影響となるかもしれない。